

LOSE

道 猫を抱いた女

「遅かったわね・・・」妻は少しじれたような声で鍵を外しながら私の顔を見上げた。玄門口でいつもより遅い私の帰りを待っていたらしい。つい今しがたまで妻の膝の上でくつろいでいたらしい猫までが、私の顔を恨めしそうに見上げている。

「やっぱり、君の言う通り、雨具を持って出掛けるべきだったね。ひどく濡れたよ、参った。」とそうそうにその場を切り抜けて「風呂に行くよ・・・」といつも通りの逃げをうつ。

借家ながらも一軒家である。平家の古い造りで、風呂へ行くには庭に面した廊下を通り抜け、庭石を三つばかり渡らなければならない。五ヶ門門風呂をすこし大きくしたような椀型の風呂桶は、肩までゆったりとつかれて湯冷めをしないし、風呂の窓を開けると今の季節は窓からあじさいがよく見える。

もうもうと立ち上る湯気の向こうに青紫色に色づいたあじさいをぼんやりと眺めた。

『話せるわけじゃないか・・・』風呂につきながら繰り返す。

『帰り道が分からなかったなんて・・・』そんな馬鹿なことがあるものか、ここに来てもう七年になるというのに・・・話せるわけがない・・・今日帰ってきた道のりを、記憶の中で辿ってみる。帰り道の記憶はみごとに、真っ白だ。何もない。狐にでも化かされたようだ。馬鹿らしい。最近少々疲れているな。まったく夢見まで悪い・・・

風呂から上がると妻は茶の間に夕食の支度を整えて待っていた。

「やっ、美味そうだな。」「すっかり冷めてしまって・・・遅くなるのは構わないんだから、電話をくださいってあれほど頼んでるのに・・・」とまだすねた声。

時計を見るともう十二時を廻っている。有楽町の駅で時計を見たのは確か八時少し前だったから、帰りつきのに四時間も掛かった事になる。

有楽町からはどんなにゆっくり帰っても、この海辺近くの家まで二時間は掛からない。

とすると二時間近くもここで辺りをうろついていた事になる。

しかも今日が始まった事じゃない、前にも何度か帰りつけない事があった。

疲れてぼんやりしていたせいだとばかり思っていたけれど・・・

そうか、あのいつもの角を曲がった時だ、いつもあの角を曲がると分らなくなる。

家までもう一歩というところで、周りの景色が見た事もない風景に変わってしまう・・・

どうしてだろう、見た事もない町並み、見知らぬ人々。でも、懐かしい風景・・・

あの角にいったい何があると言うのだろう。狐か？狸か？いやそんなものじゃない。

そうだ、あの角で聞こえて来るんだ、被の音が。七年前、あの被の音を聞いた時

ここに住み着く事に決めたんだ。しかし、何故・・・

いやもっと冷静に考えてみる必要があるぞ・・・

問題はあの被の音だ、問題はいつあの被の音を聴いたかだ。いつ？

・・・あの女に聞いてみよう。さっさから猫を抱いて俺の目の前に座っている見知らぬ女。

「あの・・・失礼ですが、ちょっとお尋ねしますが・・・いまは何年の何月何日でしょうね。

知っていたら教えてくださいませんか？いえ、大切な事なんです。出来るだけ詳しく正確にね。

いまは、何年の、何月、何日、何時、何分、何秒ですか？

ほら、ごらん下さい。こうしている間にも、大切な時が流れていってしまうじゃないですか。

もう、僕には時間がない。これから家に帰る途中なんですよ。」



Milk Hall Times 34th

Information

SCHEDULE

☆27th ANTIQUE FAIR

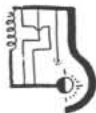
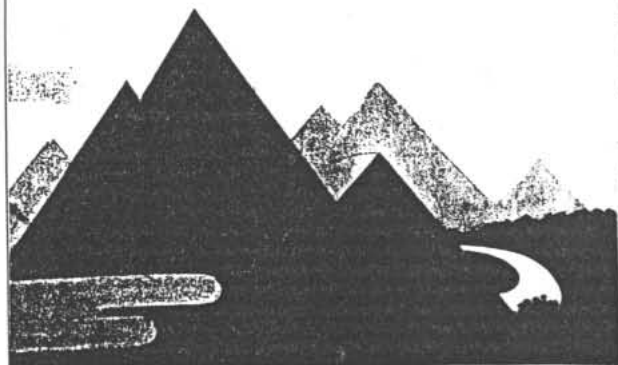
毎月27日の日に催されるアンティークバーゲン
6月27日は、「昭和のガラス」フェアです。

★ミルクホール 蚤の市 7月3日(火)～8日(日)

ミルクホール・フルハウス全館にて「蚤の市」を開催致します。
古時計、筆筒、伊万里、ガラス、古着、かんざし、レコードなどなど
使える物も、使えそうにもない物も、景気の良い呼び声でたたき売って
お祭騒ぎで梅雨空のうっとおしさを吹き飛ばそう、という企画です。

☆LIVE

ミルクホール夏の夜のコンサートの予定
バロック音楽 チェンバロ&フルート&ファゴット
ジャズ ギター&ベース&ボーカル



ANTIQU

毎年この季節になりますと、ミルクホールの凄まじい湿気には閉口しています。今にもあちらこちらからカビてきそうな勢いの湿気に唯一対抗できるのは、古びてはいても頼りになるのは冷房機です。ミルクホールの冷房機は、老朽しておりあまり働かせるのも気の毒なくらいではありますが、大きな体をブルンと奮わせてもう十数年ミルクホールの湿気退治に一役買って来ています。もう一つ忘れてならないのが旧式の扇風機。こちらは、大きいけれど地味な冷房機と違い、店の中で活躍し始めると、『まあ、かわいい』とか『ちゃんと動くのね』とか注目を集め夏の人気を拍し冷房機の噴き出す冷たい空気を店中にまんべんなく送ってくれます。フルハウスの人気商品の一つに、この旧式の扇風機というのがあります。タイマーも何も無いただ廻るといふシンプルさが人気の秘訣です。丈夫で滅多に壊れるという事もないのですが、前に誰かが床にでも落してしまったのでしょうか、円い枠も歪み、廻すと変な音さえもするようになってしまった小さな扇風機があったのですが、もう売り物にはならないからとフルハウスで使っていて気付いた事には、この扇風機、廻りながらジリジリとどこかへ動いて行ってしまうのです。扇風機が逃げ出すようではオチオチ使っていられません。ところが世の中にはもの好きな人もいる物で、この扇風機、結構人気者でした。『どうして、売らないんですか？』『どうして、だって動きますよ？こんなどこへ行っちゃうんだか解らない物不便ですよ』『うーん、でもまだそこがいいんだよな。』なんて、しばらく愛おしそうに眺めて行く人もいましたっけ。・・・ちなみに、扇風機のお値段は、5千円くらいからとお手頃になっています。扇風機好きの方は是非フルハウスへお立ち寄り下さい。フルハウス宣伝部より